

## 名譽総裁のお言葉

本日は、表彰式に全国からお集まりの皆様、特に、海の民間ボランティアとして活躍していらっしゃる皆様とお会いすることができ大変うれしく思います。

我が国の沿岸で遭難した人々や船舶のボランティアによる海難救助は、荒れた海で行われることが多いため、大変な困難と危険を伴う活動です。

そのボランティアによる海難救助活動に必要な資器材の整備費用、救助船の燃料費等の資金となる「青い羽根募金」も多くの方々にささげていただいております。

また、洋上の船舶内で急病や怪我のため緊急な手当が必要な場合に、医師にはるか洋上まで往診を行っていただく洋上救急事業が実施されておりますが、洋上での往診活動は、陸上の病院とは異なる大変厳しい条件の中でのものであり、ご苦勞も大きいものと存じます。

本日は、そのような海難救助に大変な功勞があった高知県水難救済会の宿毛救難所と大月救難所、琉球水難救済会残波ビーチ救難所の三名の救助員の皆さん並びに長崎県水難救済会の稲佐救難所、「青い羽根募金」に多額の寄付をされた遊覧船かすみ丸有限公司、そして、洋上救急事業において、これまで大変多くの往診要請に応じて、医師や看護師の方を派遣していただいた社団



お言葉を述べられる高円宮憲仁親王妃久子殿下

法人日本海員救済会 宮城利府救済会病院の計五つの団体と三名の個人を表彰させていただきました。おめでとうございます。

我が国は、三千に及ぶ島から成り立っている国です。別の言い方をすれば、まことに長い海岸線を有しており、古来より海から大きな恵みを受けて成り立っている海洋国です。

海は、海産物を得るための生産の場であり、また人と物の交流の場であり、更に、最近では人々に憩いと安らぎを提供してくれるレジャーの場でもあります。

一方、海は美しく豊かであるとはいえ、時には私たちに厳しい試練を与えることもあります。海に面した所に存在する数々の神社や祠は、海に生きてきた人々が如何に荒れ狂う海や風と闘わなければならなかったかの証のように思います。

そして今でも、私たちは、決して奢ることなく、その恩恵に感謝することを忘れてはならないかと考えます。

海におきましては、様々な海難が発生し、また海で働く人々も病氣や怪我の不安に晒されております。このようななか、日々のなりわいの傍らで、海の安全を自ら守る気概を持ち、懸命にとり組んでいる全国のボランティア救助員の方々、そのボランティアによる救助活動を資金面で支えるため募金をさされているの方々、困難な状況においても、船員の救命に尽力されておられます医師・看護師の方々、と医師・看護師を派遣されている病院の方々、感謝申し上げますとともに、本日も列席の皆さまにも、どうかこの会の発展のため、一層お力添えいただけますようお願いし、私のお祝いの言葉といたします。